

診療報酬明細書トラブル多発



医療機関に混乱

全国保険医団体連合会（保団連）は13日、部内でも見じ、「マイナ保険証・オンライン資格確認」認トラブル事例アンケート第2弾の最終集計結果を発表しました。全国の医療機関でレセプト

（診療報酬明細書）が返戻（へもれい）差し戻しになった事例が55件紹介されたが、同じスムーズをめぐって現場が混乱してくる実態が明らかになりました。

保団連の前谷がおる事務局次長は「いったん提出したレセプトが戻されると、医療機関にはその分の収入が入らないとなる。（再提出のための）事務負担にもなる。今後追及していくべきだ」と述べました。

マイナ保険証 オンライン資格確認

回アンケートが実施

回連が7月29日から8月31日まで実施。39都道府県、7070医療機関から回答を得ました。

この中で、医療機関が健康保険組合からの保険者に提出するレセプト（負担割合の相違などの不備があり返

・マイナ保険証やオンライン資格確認で発生しているトラブルが報告された保団連の会員二

13日、東京都千代田区

保団連が最終集計結果

戻した事例が55件ありました。また、70歳以上の患者の健保証裏面の負担割合と同システムには、「マイナ保険証資格ありを確認し、レセプトを提出したら、資格がない返戻された。未収金が発生した」「（負担割合が）正確でなく、結果的に返戻が一人だけ3回必要になった」などの回答が寄せられました。

70歳以上の医療費は、人によって負担割合が異なっています。保団連は回り、厚生労働省と、同システムをめぐって発生している問題の解決をもとめ、要請を行いました。